

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藤岡市立藤岡第二小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒375-0024
群馬県藤岡市藤岡 991

E-mail daini-es@fujioka-school.gunma.jp
Website http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010002

幼児児童生徒数 男子 308名 女子 271名 合計 579名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「鬼瓦を作ろう～地域の伝統産業を学ぶ」を活動テーマとして、ESD を地域の伝統産業について探求的、体験的に学ぶ学習ととらえ、ESD の実践を通して地域の産業や郷土の歴史、文化に対する誇りと愛情を育てることを目標とした。

具体的には、鬼瓦について調べたり作ったりする体験を通して地域産業や郷土のよさを知り、積極的に関わっていこうという態度を育てる学習を行った。

① 『伝統産業や郷土を学ぶ』に係わる活動

本校における特色のある教育活動の一つに、地域の伝統産業である瓦作りについて学ぶ学習がある。その取組は第 5 学年で行っており、1995 年に始まってから 22 年目を迎えた。

児童は「藤岡瓦」の優れた特性や、その生産が今から約 1260 年前に遡ること、仏教の伝播との関連などについて、鬼瓦職人の話や工場見学、調べ学習を通して学んだ。

また、鬼瓦職人の話や実物に触れることを通して、児童は鬼瓦には病魔や災難から家族を守りたいという人々の願いが込められていることを知った。そして、調べたことや考えたことをもとに記事を書いて「瓦新聞」を作成し、さらに、自分なりの思いや願いを込めた、世界でただ一つの「鬼瓦」を制作する体験を行った。



鬼瓦職人による藤岡瓦の話



鬼瓦職人による鬼瓦制作指導



鬼瓦の窯出し



完成した児童の作品

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・「まんが 藤岡の歴史」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>第5学年、総合的な学習における単元「鬼瓦をつくろう」（「地域の伝統工芸品」）をユネスコスクールの活動として位置づけている。</p> <p>地域の伝統産業である瓦作りに着目し、「藤岡瓦」や「鬼瓦」について調べたり制作体験を行ったりすることを通して、知的な探究心や思考力、表現力を養うとともに、地域の産業や郷土の歴史、文化に対する誇りと愛情を育てることをねらいとして学習活動を行っている。</p> <p>学習過程としては『触れる・つかむ』：鬼瓦職人の話を聞き、瓦について調べたい課題を見つける。→『追究する』：調べたこと新聞にまとめ、発表する。鬼瓦職人の指導を受け、鬼瓦制作をする。→『生かす・広げる』：できあがった鬼瓦の鑑賞発表会をする。体験の感想をまとめる、となっている。また、国語や図工の学習とも関連づけながら、指導に当たっている。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 単元指導計画の整備
- ・ 地域人材に継続的な指導を依頼
- ・ 学習に必要な教材、教具の整備

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価は行っていない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学習活動を学校の Web ページで紹介したり、学年だより等で紹介したりしている。また、新聞社へ取材を依頼し、記事として扱ってもらった。保護者、地域に学校の取組を知ってもらうよい機会となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

特になし。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

なし。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ・地域の伝統産業や文化に関心をもち、それらに誇りを感じる児童が増えている。
- ・児童に指導してくれている地域の鬼瓦職人も、児童が熱心に取り組む様子から、地元の教育のためこれからも協力を約束してくれている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度と同様、第 5 学年が総合的な学習の時間に、単元「鬼がわらを作ろう」を実施予定。学習内容は、瓦の歴史、鬼瓦に込められた思いなどから、課題をもち、調べ学習を行う。それを新聞に表し、発表する。その後、鬼瓦を制作する。

地域の伝統産業の「鬼瓦」の作り手がいなくなってしまった実態を知り、解決策を考え、提案書をつくり、発表会を行う。